

<副作用>

副作用と症状	頻度	対策	備考
白血球減少 発熱 風邪様症状	重度20%以下 約50%	うがいや手洗い・休養を心がける。白血球を増やす薬や抗生物質を使うこともあります。	
血小板減少 出血	—	けがや打撲、歯ぐきからの出血、鼻血などに気をつけて下さい。止血剤を使ったり、輸血をすることもあります。	
貧血 倦怠感、息切れ めまいなど	—	検査結果によっては、造血剤を使ったり、輸血をすることがあります。	
吐き気・嘔吐		我慢せず吐き気止めを使用してください。	
下痢・腹痛	重度約10%	水分摂取を心がける。下痢止めや整腸剤を使用する。	
口内炎	—	うがい薬や塗り薬を使用する。	
便秘		水分摂取に心がける、食物繊維の多い食べ物を摂る。便秘薬。	
末梢神経障害 手足や口のしびれ びりびり感	80%以上	手足を冷やさないように。ビタミン剤や漢方薬の使用。	
血管痛・静脈炎	—	痛みや腫れがあれば、すぐに申し出てください。	
間質性肺炎、肺障害	非常にまれ	空咳、息切れ、呼吸困難、発熱など。早期発見が大事。	
皮膚症状 ざ瘡用皮膚疹、そう痒感 皮膚乾燥、落屑、 多毛症、爪周囲炎	約80%	塗り薬を使用して、予防・治療していきます。	
過敏症（アレルギー） 顔がほてる 息苦しい、胸が苦しい 発疹、かゆみなど	—	予防薬を使いますが、症状があればすぐに申し出てください。	
白質脳症	非常にまれ	口のもつれ、ふらつき、物忘れなど。早期発見が大事。	
その他：発熱（約20%）、倦怠感（約60%）、腎障害、肝障害、肺障害、心障害、視力障害、血栓（これらは非常にまれ）、脱毛（40%未満）、手足症候群など			

<注意事項>

- ★ 神経障害は冷気や冷たいものに触れると悪化します。通常7日以内に治まりますが、特に治療後5日くらいは冷気や冷たいものへの接触、冷たい飲食物の摂取を避け、身体の保温に努めてください。治療継続中に文字が書きにくい、ボタンがかけにくい、歩きにくい、食物が飲み込みにくい等、日常生活に支障をきたすほどの障害が現れた場合は、中止、減量、休薬が必要です。
- ★ 5～10コース治療中にオキサリプラチンによるアレルギーを起こす頻度が高い（約15%）と報告されています。

ここにあげた副作用は、代表的なものです。万一、副作用が現れても、早期に発見、対処すれば、治療の継続が可能です。過剰に心配せず、気になること、調子の悪いことがあれば、医師、薬剤師、看護師に申し出てください。

